

# BlueStack-Micro-plusを使った BlueDV装置の構成方法

2017年1月18日 (V2.1)

JR10FP

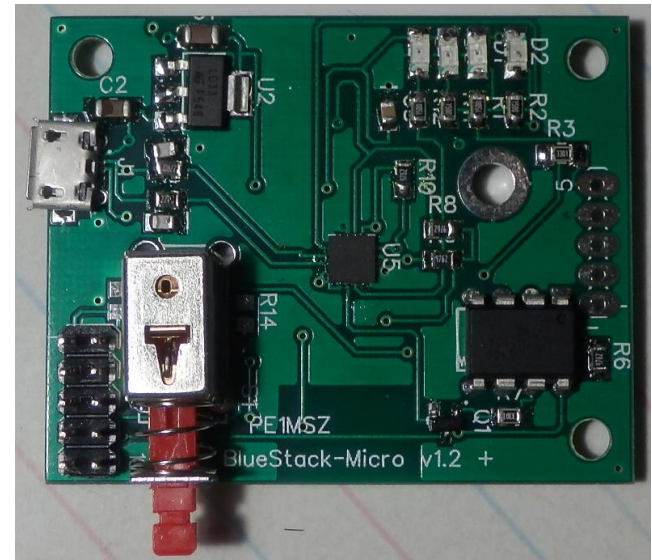
# 1. 準備する物

(1) DVMEGAの基板 (Single band or Dual band)  
BlueDV対応のFirmwareに書き換えておく。  
日本仕様の下記Firmwareは、BlueDV対応です。  
ファイル名: DVMEGA\_HB\_V307.cpp.hex

(2) BlueStack-Micro-plusの基板

(3) Android スマホ 又は タブレット  
(Android V4.0以降)

(4) 5V 電源 (0.5A以上)

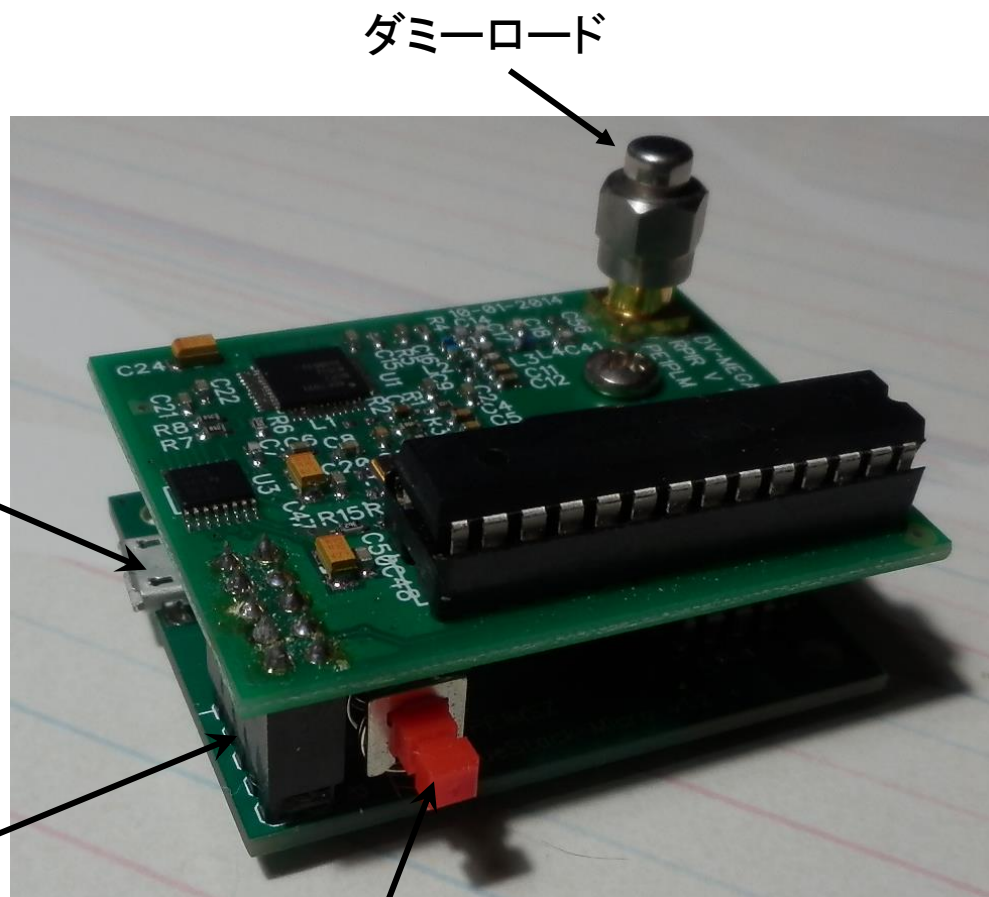


## 2. 組み立て方法 (1)

5V電源をマイクロUSBコネクタケーブルで接続する。

BlueStack-Micro-plus基板とDVMEGA基板をコネクタで接続する。

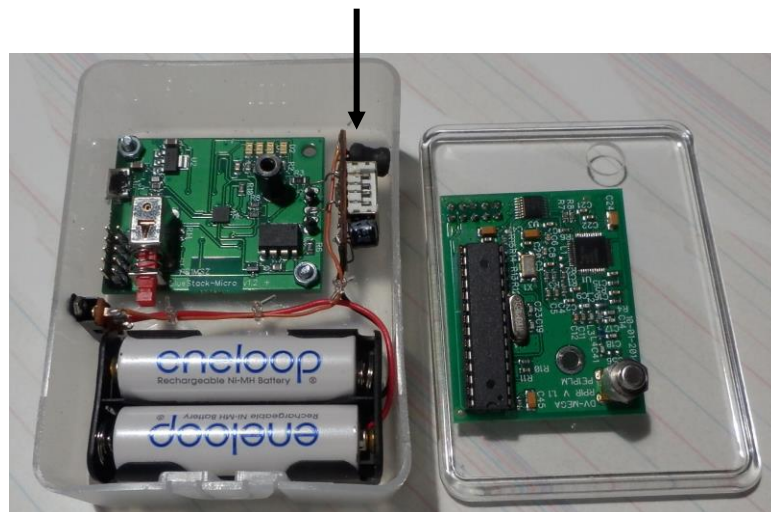
スイッチは出っ張った状態にする。



## 2. 組み立て方法 (2)



(DC-DCコンバータ)  
秋月電子で購入した 5V DCDCコンバーター  
基板を使いました。

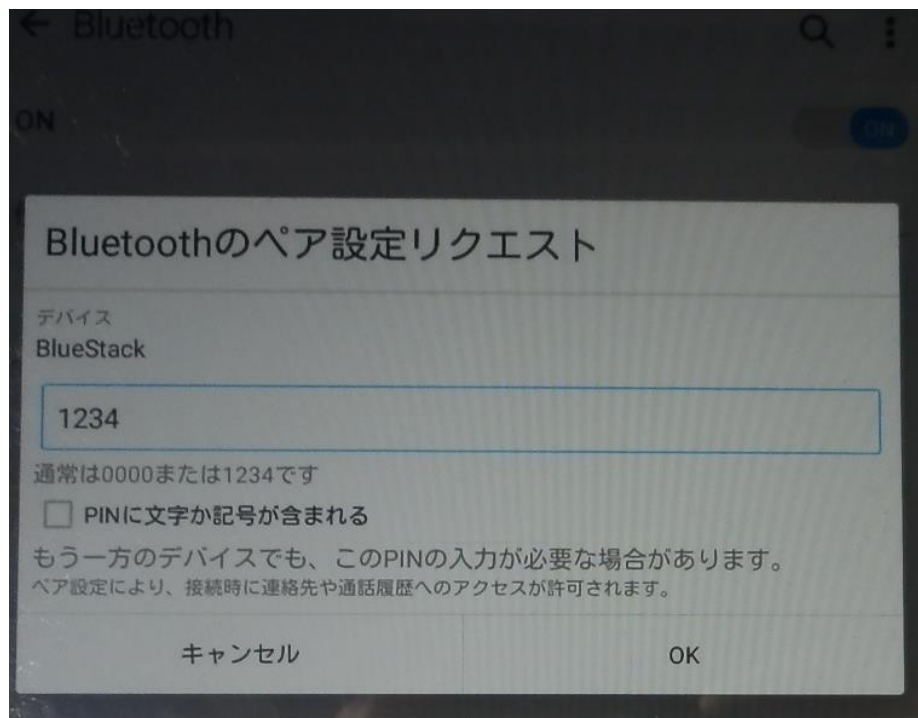


3V => 5VのDC-DCコンバーターを使い、単3電池2本で動く様にしました。  
これにより、電池と一緒にケースに収めることができました。

実験した結果、eneloop 2本をフル充電しREF076Cに接続した状態で約8時間使えることが確認できました。

### 3. Androidoスマホの設定方法 (1)

- (1) アンドロイドスマホに BlueDVアプリをインストールする。
- (2) BlueDV装置 にマイクロUSB経由で 5V電源を 接続する。
- (3) スマホのBluetooth機能を有効にし、BlueStackとペアリング設定を行う。  
PINコードは「1234」



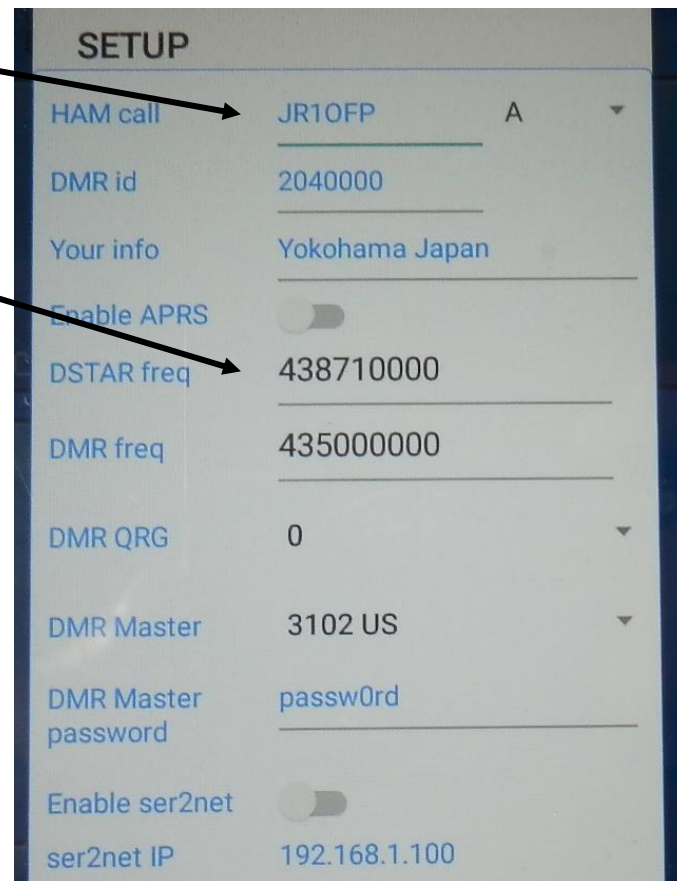
### 3. Androidoスマホの設定方法 (2)

- (4) スマホアプリのBlueDVを立ち上げ、SETUPで必要なパラメータを設定する。

最低限必要なのは、 Ham call と DSTAR freq

(設定例) Ham call : JR10FP  
(ノード局のCall sign)

DSTAR freq : 438710000 (Hz)





### 3. Androidoスマホの設定方法 (3)

(5) 接続したいリフレクターとモジュール  
を選択する。

(6) 接続ボタンを押す。

